

大阪における **MICE**推進方針

平成**29**年 3 月

大阪**MICE**推進委員会準備会

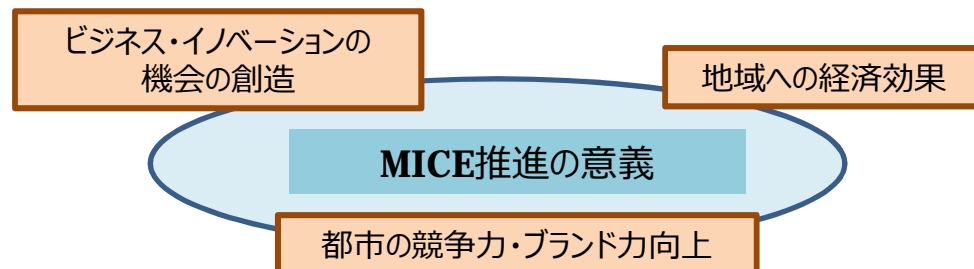
< 目 次 >

○ 大阪における MICE 推進方針の目的	P 1
○大阪における MICE 推進方針の位置づけ	P 2
○ 大阪における MICE の現状と課題	P 3
○ 大阪における MICE 推進の基本的な考え方	P 1 0
○ MICE 推進の達成目標	P 1 1
○ 戦略的 MICE 誘致の推進	P 1 2
○ 主要 MICE 拠点の役割分担・機能強化	P 1 5
○ MICE クラスターの連携	P 1 9
○ MICE 関係想定スケジュール	P 2 0

大阪におけるMICE推進方針の目的

- ・MICEは、交流人口増だけでなくMICEに参加する国際人材や企業・学会等とのネットワーク構築により開催地のビジネス・イノベーションの機会を創造するものである。また、MICE参加者の消費額・宿泊数は一般観光客のそれよりも多いため地域への経済効果が高く、かつ開催都市の国際的認知度やブランド力向上に資するものである。
 - ・さらに、MICE開催に関連する産業は多岐に渡っており、施設事業者、会議・展示会運営事業者はもとより、宿泊業、旅行業、運輸業、飲食業、その他地域の経済活動を支える多様な企業との関連が高い。
 - ・そのため、世界的にMICE誘致が経済活性化の有効な手法として注目されてきており、誘致競争は年々激化してきている。
 - ・大阪における国際会議開催件数は増加の傾向にあるものの、都市経済規模やインフラの整備状況を鑑みると世界的・国内的にも少ない状況となっている（国際会議開催件数（平成27年（2015年））23件 世界115位 国内4位（ICCA（国際会議協会）統計より））。
 - ・その要因として、大阪には、近年の国際会議や展示会の開催態様の変化に対応した、会議場・展示場などが一体的に整備・運営されるMICE施設が不足していることと併せて、オール大阪のMICE推進の方向性や体制がないことが考えられる。
 - ・また、夢洲における統合型リゾート（IR）など国際観光拠点の形成や国際博覧会誘致の動きもあり、世界的に大阪が注目されMICE機能が強化されるこの機を逃さず対応することが重要である。
 - ・そのため、今後、府・市・経済団体・大阪観光局等が一体となって行うMICE推進体制の構築や誘致活動の方向性を定めるとともに、大阪のMICE拠点の役割分担・機能強化の方向性を定め、大阪の経済活性化や都市魅力の向上を図る。
- 対象期間：平成29年度(2017年度)から平成37年度（2025年度）

多岐に渡るMICE関連産業



※MICE（マイス）とは、企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字のことであり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称

【国での取り組み】

- ・平成21年（2009年）に観光庁が「MICE推進アクションプラン」を策定した。
- ・平成26年度（2014年度）～平成27年度（2015年度）に、国が日本のMICE誘致競争を牽引できる実力ある都市の育成を狙う「グローバルMICE都市」の一つとして、大阪府・市が選定された。
- ・平成28年（2016年）の「日本再興戦略の鍵となる施策」の一つに「観光立国」が掲げられ、「MICE誘致の促進」を進めることとされた。
- ・「観光ビジョン実現プログラム」（平成28年（2016年）策定）において、観光立国実現に向けた主要な柱の一つとして「MICE誘致の促進」が位置付けられた。

【大阪都市魅力創造戦略2020】

（戦略目標）

内外から人、モノ、投資等呼び込む「強い大阪」の実現

世界に存在感を示す「大阪」の実現

（10の目指すべき都市像）

多様な人材が集う**観光・MICE都市**

多彩な人が訪れ、集い、交流する活気あふれる都市を目指します。

（KPI）◎主指標 国際会議開催件数 **340件（H32）**

- 副指標 ・MICE外国人参加者数
- ・インセンティブツアーの誘致・開催件数
- ・インテックス大阪における展示会延べ使用面積

大阪におけるMICE推進方針

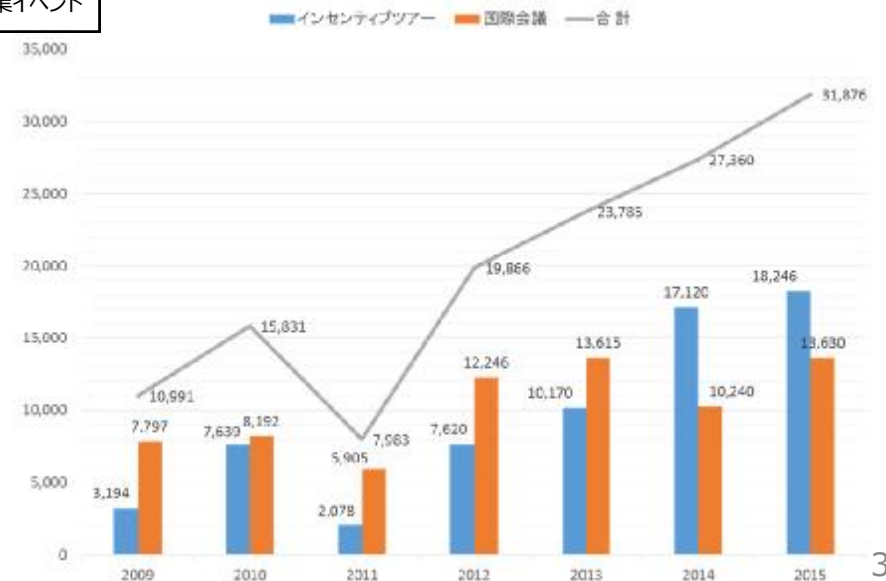
大阪におけるMICEの現状と課題 (1) 大阪におけるMICE施設と開催状況

・インテックス大阪は国内3位の規模を誇る大規模展示会・見本市の会場として、大阪府立国際会議場は大阪を代表する国際会議場として大阪経済の発展や国際化を牽引してきた。その他様々な規模・機能を持つMICE施設を府内各所に有し、国内外の展示会・見本市や国際会議等を開催している。しかし、世界的な潮流となっている大規模MICE開催に対応可能な一定規模の展示場・会議場が一体的に整備・運営されているMICE施設は不足している。

大阪の主なMICE施設

地域	施設名	開業年	最大収容人数 (会議室)	会議室数	展示面積	用途
中之島	大阪府立国際会議場	2000年	2,754名	27室	2,600㎡	国際・国内会議、企業会議、コンサート
上本町	大阪国際交流センター	1987年	1,006名	12室	無し	国際・国内会議、企業会議、コンサート研修
梅田	コングレコンベンションセンター	2013年	1,750名	12室	約1,700㎡	企業会議・企業展示、国際・国内会議
南港	インテックス大阪	1985年	300名	25室	70,078㎡	大規模展示会、企業インセンティブ
南港	ATCホール	1994年	300名	10室	7,000㎡	展示会、企業イベント、一般イベント
堺筋本町	マイドームおおさか	1987年	210名	7室	4,843㎡	中小規模展示会、商談会
大阪城	大阪城ホール	1983年	13,000名	3室	3,500㎡	コンサート、企業イベント

大阪におけるMICE参加外客数の推移



大阪における国際会議開催状況(平成27年(2015年))

No	会場名	所在地	開催件数	外国人参加者数	国内参加者数	参加者総数	参加者数/件
1	大阪大学	吹田市豊中市	70	1,190	10,537	11,727	168
2	大阪府立国際会議場	大阪市北区	34	7,614	69,217	76,831	2,260
3	ナレッジキャピタル(グランフロント大阪)	大阪市北区	26	1,391	40,212	41,603	1,600
4	大阪市立大学	大阪市住吉区	21	375	4,472	4,847	231
5	関西大学	吹田市	15	183	4,245	4,428	295

(JNTO作成2015年国際会議統計より抽出)

大阪におけるMICEの現状と課題 (2) 他都市のMICE施設状況

・国内には、東京・横浜・名古屋・京都・神戸・福岡をはじめ各都市にMICE施設が設置されているとともに、多くの施設において新設・拡張が予定されている。

国内の主なMICE施設

都市名	主要MICE施設	開業年	会場収容	展示面積	拡張計画等
東京	東京国際フォーラム	1997年	5,012人 (固定席)	5,000㎡	-
	東京ビッグサイト	1996年	1,000人 (固定席)	95,420㎡ (仮設含)	約2万㎡拡張予定
横浜	パシフィコ横浜	1991年	5,002人 (固定席)	20,000㎡	約7.6千㎡拡張予定
千葉	幕張メッセ	1989年	1,664人 (可動)	72,000㎡	-
京都	国立京都国際会館	1966年	1,840人 (固定席)	3,000㎡	約2千㎡拡張予定
	みやこメッセ	1996年	120人 (可動)	9,650㎡	隣接MICE施設整備
神戸	神戸国際会議場	1981年	692人 (固定席)	-	改築予定
	神戸国際展示場	1981年	4,000人 (一部可動)	13,600㎡	-
名古屋	名古屋国際会議場	1990年	3,012人 (固定席)	1,920㎡	修繕
	ポートメッセなごや (名古屋国際展示場)	1973年	750人 (可動)	33,946㎡	約4万㎡拡張予定
福岡	福岡国際会議場	2003年	3,000人 (固定席)	1,320㎡	-
	マリンメッセ福岡	1995年	250名	10,500㎡	約5千㎡拡張予定
	福岡国際センター	1981年	198人 (可動)	5,052㎡	-
	福岡サンパレス	1981年	2,316人 (固定席)	-	-

各都市では今後のMICE需要を予測して施設の新設、拡張が始まっている

- 仙台 (仙台国際センターの拡張・3千㎡)
- 高崎、長崎、熊本 (MICE複合施設の新設)
- 愛知 (新たな国際展示場の建設・6万㎡)
- 奈良 (2000名収容規模の国際会議場の建設)
- 姫路 (新たな国際会議場の建設)
- 沖縄 (MICE複合施設の新設・4万㎡、1万人収容規模)

都道府県別国際会議開催件数 (JNTO統計)

NO	都道府県	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年
1	東京都	510	484	517	537	565	583
2	福岡県	269	268	301	312	411	450
3	大阪府	152	135	281	314	253	242
4	京都府	160	145	202	179	211	230
5	宮城県	74	42	85	81	85	225
6	神奈川県	180	174	196	234	208	193
7	愛知県	139	125	144	154	179	187
8	兵庫県	121	105	112	110	100	133
9	北海道	97	81	68	98	107	114
10	広島県	41	37	53	64	67	74

国内地域別展示会開催件数 平成26年度 (2014) 年度
(展示会データベース (ピーオーピー) による)

NO.	都道府県	開催件数
1	東京	313
2	大阪	50
3	千葉	29
4	神奈川	26
5	愛知	12
6	北九州	8
7	兵庫	5
8	福岡	4
9	新潟	3
10	静岡	3

大阪におけるMICEの現状と課題 (3) 海外都市のMICE施設状況

- ・海外では会議場・展示場が一体的に整備・運営され、周辺にホテル、飲食・物販、エンターテイメント等が近接して立地するいわゆるオールインワン型で、かつ大規模な施設が多い。
- ・特に、シンガポールにおいては、公民がそれぞれMICE施設を建設・運営し、統合型リゾート（IR）施設との相乗効果を図り役割分担及び棲み分けを行いながら様々なMICEを受け入れ、シンガポール全体のMICEについては経済活性化につなげている。

大規模なMICE施設の状況

国名	施設名	開業年	展示面積	最大会議収容人数	会議室数	その他
韓国	COEX	1979年	36,000㎡	1,800人	48室	第2COEX建設
	KINTEX	2005年	100,000㎡	1,600人	39室	周辺インフラ整備
	BEXCO	2001年	46,000㎡	4,000人	49室	第2,第3BEXCO建設
台湾	台北世界貿易中心 南港展覽館	2008年	45,000㎡	500人	8室	国際会議場、ホテル建設
香港	アジア・ワールド EXPO	2005年	70,000㎡	13,500人	7室	
中国	北京新中国国際 展覽中心（新館）	2008年	106,000㎡	500人程度	20室以上	
	上海新国際博覧 中心	2001年	200,000㎡	200人程度	30室以上	
	中国博覧会会展 総合体（上海）	2015年	500,000㎡	3,000人	60室以上	
タイ	IMPACT	2000年	140,000㎡	11,000人	30室	
オーストラ リア	ICC SYDNEY	2016年	35,000㎡	8,000人	70室	
	Melbourne Convention & Exhibition Center	2008年	30,000㎡	15,000人	52室	約4万㎡拡張予定

シンガポールの主要MICE施設

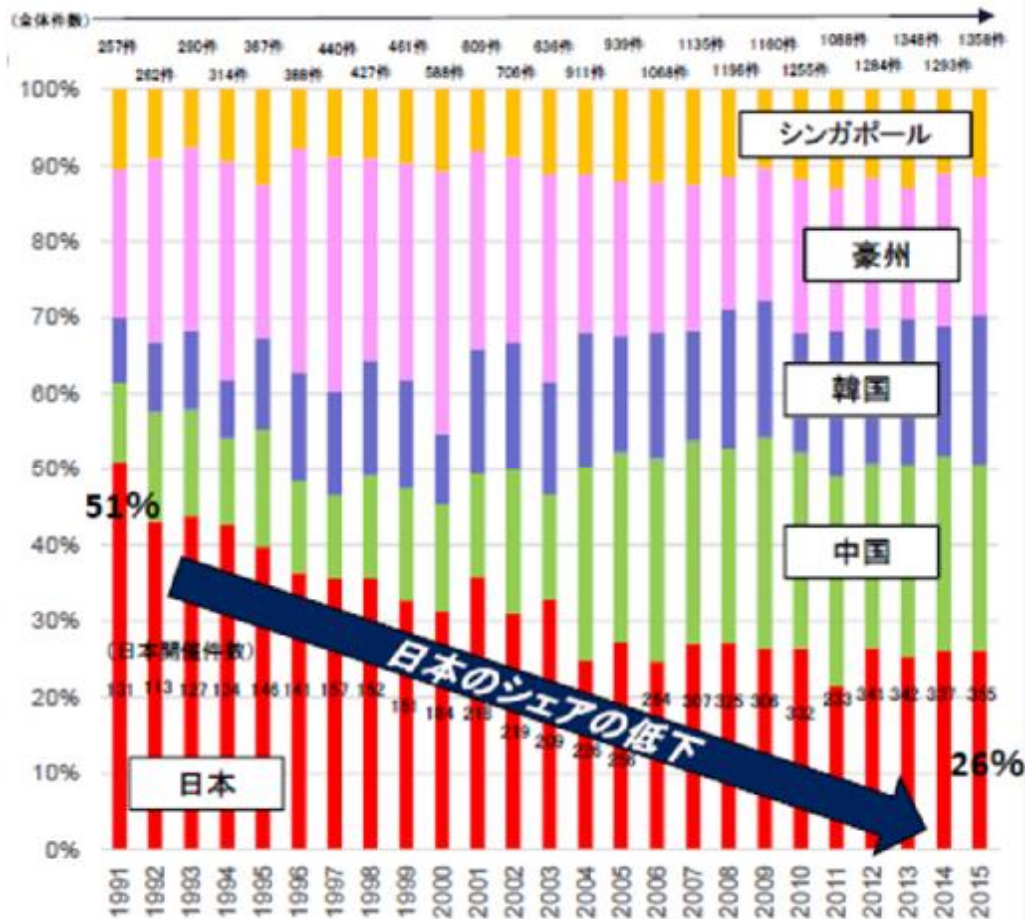
施設名	設置 運営	開業年	展示面積	最大規模 会議収容	会議室	主なMICE市場
サンテック・ シンガポール	民設 民営	1995年	24,000㎡	12,000人	36室	学術会議・政府系会議 IME, Sibos等
シンガポールEXPO	公設 民営	1999年	100,000㎡	8,000人	42室	大規模展示会 年間700件展示イベント
マリーナベイ・サンズ (統合型リゾート)	民設 民営	2010年	32,000㎡	11,000人	217室	企業系MICE 中小規模展示、営業会議 インセンティブ

MICE先進都市シンガポールの強さの要因の一つは、統合型リゾート（IR）事業者と公共が役割分担をしていることにある。

大阪におけるMICEの現状と課題 (4) 世界の中での日本・大阪の位置

- ・日本で開催された国際会議件数は対前年**18件増の355件**（世界順位：7位、アジア・大洋州・中東地域順位：1位）となっている。しかし、アジア主要5か国（日本、中国、韓国、シンガポール、豪州）の総開催件数に占める日本のシェアは一貫して低下傾向にある（ICCA（国際会議協会）統計より）。
- ・大阪の国際会議開催件数は国内**4位**（世界順位：115位、アジア・大洋州・中東地域順位：25位）にとどまっている。

アジア・大洋州地域の主要国の国際会議開催件数に対する日本のシェア推移（1991～2015）



（観光庁資料より）

アジア・大洋州・中東地域の都市別国際会議ランキング

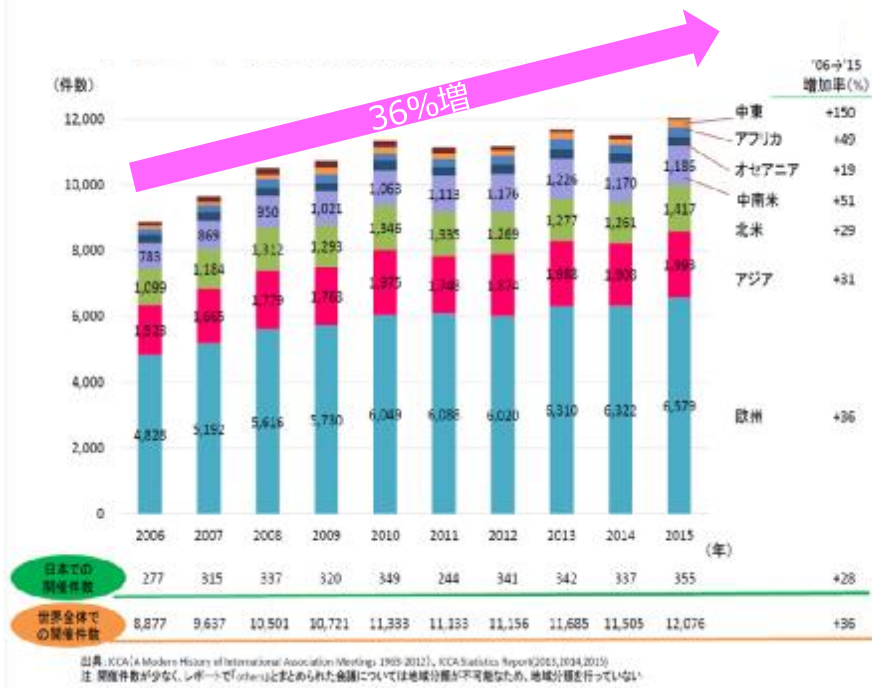
2015年 アジア・大洋州・ 中東地域順位	2015年 世界順位	都市	2015年 開催件数	2014年 開催件数	2013年 開催件数
1位	7位	シンガポール	156件	142件	175件
2位	13位	ソウル	117件	99件	125件
3位	15位	香港	112件	98件	89件
4位	16位	バンコク	103件	73件	93件
5位	19位	北京	95件	104件	105件
6位	22位	台北	90件	92件	78件
7位	25位	シドニー	86件	82件	93件
8位	28位	東京	80件	90件	79件
9位	32位	クアラルンプール	71件	79件	68件
10位	46位	ドバイ	56件	56件	37件
11位	47位	上海	55件	73件	72件
12位	49位	メルボルン	54件	61件	52件
13位	57位	京都	45件	47件	43件
14位	64位	マニラ	41件	22件	28件
		ニューデリー	41件	35件	35件
16位	68位	パリ	40件	38件	55件
17位	73位	アブダビ	35件	22件	23件
18位	77位	釜山	34件	35件	34件
		済州	34件	41件	45件
20位	85位	福岡	30件	15件	12件
21位	93位	オークランド	28件	19件	19件
		プリズベン	28件	37件	25件
		マカオ	28件	23件	16件
24位	100位	杭州	27件	17件	17件
25位	115位	大阪	23件	10件	20件
26位	117位	横浜	22件	18件	17件
30位	139位	札幌	18件	19件	13件
39位	182位	名古屋	14件	11件	15件
42位	191位	神戸	13件	15件	18件
		沖縄	13件	16件	9件

（ICCA（国際会議協会）統計より作成）

大阪におけるMICEの現状と課題 (5-1) 世界におけるMICE需要の動向

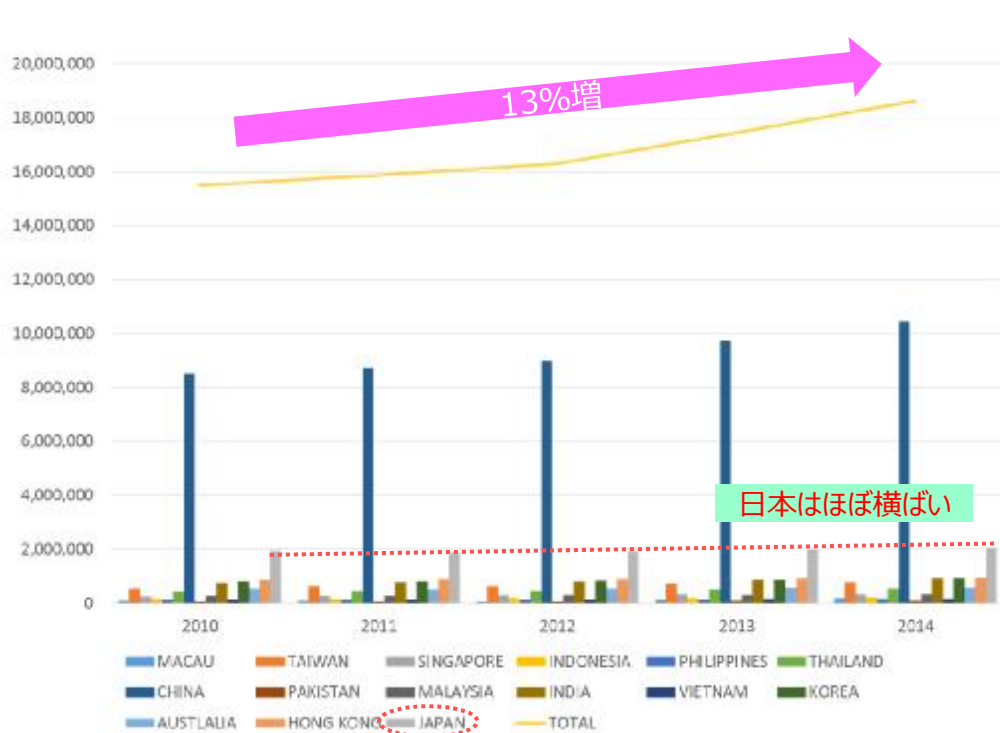
- 世界における国際会議の需要動向について、国際会議開催件数は10年間で36%増加している（ICCA（国際会議協会）統計より）。
- また、展示会についても、世界における開催件数は増加の傾向にあり、販売面積は4年間で13%増加している。特に、アジア太平洋地域では4年間で30%以上増加している。また、展示会については、供給が需要を創出する傾向が見られ、大規模展示場を整備すれば展示会開催件数の増加が見込まれる。

世界の国際会議開催件数の推移 (2006~2015)



(観光庁報道発表資料より)

展示会販売面積の推移 (2010~2014)

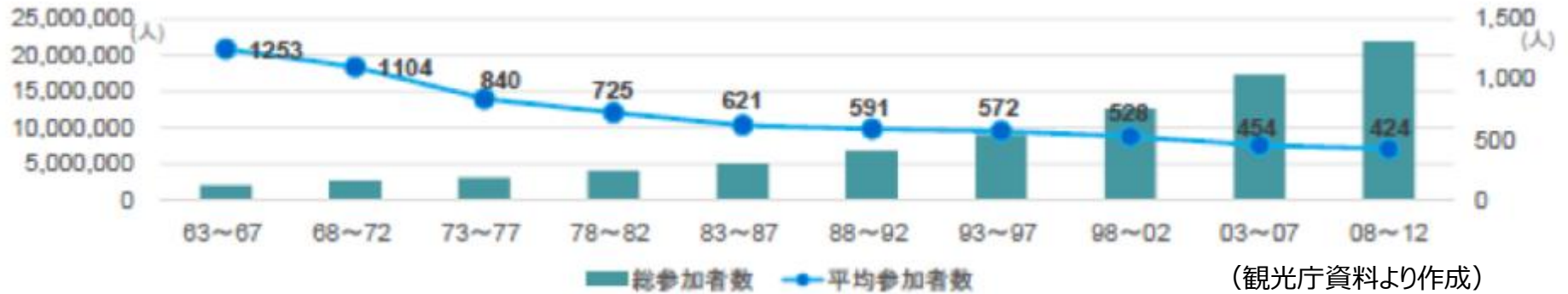


(UFI (国際見本市連盟) 資料より)

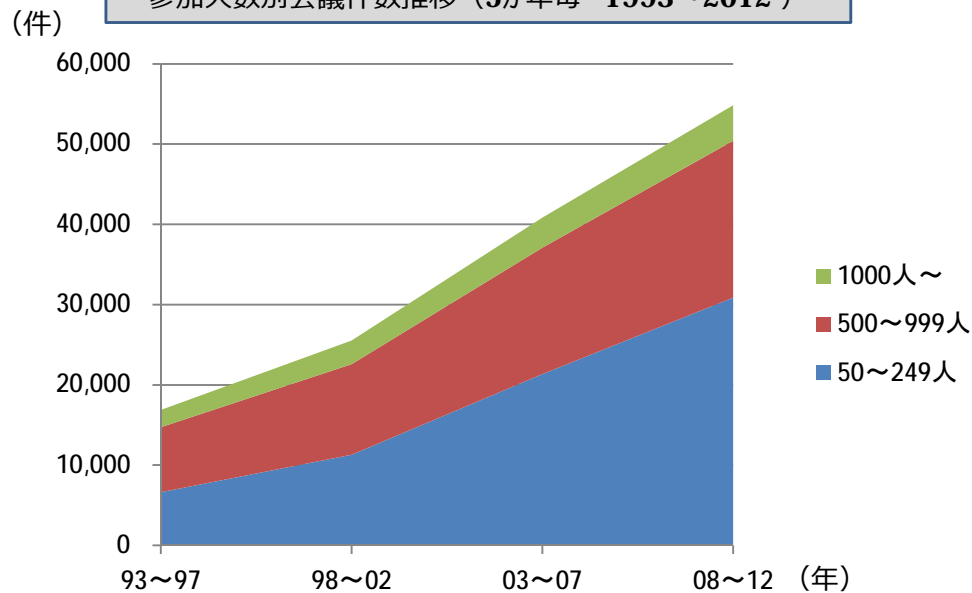
大阪におけるMICEの現状と課題 (5-2) 世界におけるMICE需要の動向

・国際会議の開催件数は年々増加傾向にある。参加人数別で見ると、**250人未満**の会議が増加傾向にある。

参加者数総数 (5か年毎・1963~2012)



参加人数別会議件数推移 (5か年毎・1993~2012)



大阪におけるMICEの現状と課題 (6) 大阪MICEを取り巻く環境まとめ

- ・大阪のMICEを取り巻く状況としては、オールインワン型施設の不足や、オール大阪のMICE推進の方向性や体制の不足、ターゲットの絞り込み不足等が弱みとしてあげられるが、国際空港から都心部や主要MICE施設への交通アクセスなど充実した都市基盤、先端産業や国内有数の大学・研究機関の集積などが強みとなっている。
- ・夢洲における統合型リゾート（IR）など国際観光拠点の形成や国際博覧会誘致の動きもあり、世界的に大阪が注目されMICE機能が強化されるこの機を逃さず対応することにより、大阪が世界有数のMICE都市をめざすことが可能となる。

【SWOT分析】

<p>○強み (Strength)</p> <p>先端産業の集積 多くの学術機関・企業等の会議主催者の存在 充実したMICE施設（西日本最大規模の会議場と展示会場）と豊富な開催実績 陸・海・空の交通ネットワーク 国内外と繋がり、交通便利性を誇る関西国際空港 充実した宿泊施設 観光地としての実績（特にアジアから） 京都・奈良など関西の観光拠点、ハブ機能 豊かな観光・商業施設、食文化等 アフターコンベンションの充実 APEC、SIBOSや世界陸上など多くの国際イベントの開催実績 大阪観光局によるワンストップサービス</p>	<p>○機会 (Opportunity)</p> <p>海外からのインバウンドの増大 世界的に国際会議は増加傾向 東京オリンピックによる代替需要 国によるMICE施策の推進</p>
<p>○弱み (Weakness)</p> <p>会議場と展示場が離れている 展示場の老朽化 会議場の高稼働率による機会損失 海外における都市の知名度の低さ MICE専門の人材・人員が不足 各エリアでの受け入れ体制が不十分</p>	<p>○脅威 (Threat)</p> <p>アジア諸国におけるMICE機能の強化 他国の国主導による施設整備、低価格賃料 MICE誘致について国内外の都市間競争激化 国内他都市における施設拡充の動き</p>

世界有数の「高付加価値経済MICE戦略都市」をめざして

大阪の成長産業振興・経済活性化、MICE都市ブランド向上へ

大阪におけるMICE推進の基本的な考え方

MICEは今後世界的に需要増が見込まれることから、MICE推進を大阪経済の活性化につなげていくため、府・市・経済団体・大阪観光局が緊密に連携し、戦略的に推進する。

関西のゲートウェイであり関西広域における成長拠点として、大阪・関西の経済成長を牽引するMICEを誘致・開催する。

- ◎ **戦略的MICE誘致の推進**
 - ・大阪の成長産業分野や都市格向上につながるMICEなどを重点的に誘致するとともに、大阪の特色を活かした重点誘致対象を設定する。
 - ・MICE推進体制の構築、マーケティング・セールス手法強化を推進する。
- ◎ **主要MICE拠点の役割分担・機能強化**
 - ・国際競争、地域間競争に打ち勝つため、大阪の主要MICE拠点において、各拠点の役割分担やオールインワン型をはじめとする多様な規模・形態の施設への機能強化の検討を行う。
- ◎ **MICEクラスターの連携**
 - ・複数のMICEクラスターを組織化し、施設や地域の特性に合わせた誘致対象などの検討を行う。

MICE推進の達成目標

- ・本MICE推進の基本方針の達成目標年度は、平成37年度（2025年度）に設定する。
- ・達成目標数値の設定にあたっては、大阪の経済活性化をめざしたMICE推進の目的に鑑み、従来の国際会議開催件数だけでなく、開催内容（経済効果、学術研究、社会的影響力等）が大阪経済に資するかどうかの評価を重視したもののとし、その中から数値による把握が可能なものとする。

達成目標（KPI） 平成37年（2025年）

都市別国際会議開催ランキング 世界30位以内（アジア・大洋州・中東地域10位以内）（ICCA基準）
（H27（2015） 世界115位、アジア25位）

大阪府域の国際会議開催件数 600件以上（JNTO基準）（H27（2015） 242件）

経済波及効果※ 400億円以上（国際会議、インセンティブツアーのみ）
（H27（2015） 164億円）

※観光庁の「MICE開催による経済波及効果測定のための簡易測定モデル」を用い
大阪市内で開催されたものについて算出。

（上記以外にも、MICE施設等関係者の協力を得ながら、M/I/C/E毎に開催件数、規模、参加者数（うち海外からの参加者数）等実績データを収集し、毎年振り返りを行う。）

戦略的MICE誘致の推進

主要MICE拠点の役割分担・機能強化

MICEクラスターの連携

戦略的MICE誘致の推進（1）

（1）重点誘致対象（誘致ターゲット）の設定

重点誘致対象（誘致ターゲット）

大阪の強みであり今後成長が期待される環境・新エネルギー分野、ライフサイエンス分野、情報通信分野等の産業分野に加え、都市格の向上にもつながる国連等政府系会議に関連するものを最優先としつつ、金融関係、インセンティブツアーなど、大阪経済への波及効果が高く見込まれるものについて**MICE**毎にターゲットを設定し国内外から戦略的に誘致する。さらに、食・スポーツなど、大阪の特色を活かした分野に加え、特に、平成**37**年（**2025**年）に誘致をめざしている国際博覧会のテーマにつながるものに注力する。

	重点誘致対象	考え方
M （会議） (Meeting)	環境・新エネルギー、ライフサイエンス、情報通信等に関連する会議	成長分野に関連しイノベーション創出に資する企業の中小会議や、アジア太平洋地域で周回型の業界団体の大会を誘致
I （インセンティブ） (Incentive)	近隣アジア諸国からの大型インセンティブツアー	特に外資系企業が主催するものを誘致
C （国際会議） (Convention)	環境・新エネルギー、ライフサイエンス、情報通信等に関連する学術会議、国連等政府系会議	成長分野に関連しイノベーション創出に資する学会・協会等主催の学術会議や、国や国連等国際団体に関連する政府系会議を誘致
E （展示会・イベント） (Exhibition/Event)	環境・新エネルギー、ライフサイエンス、情報通信、食、スポーツ等に関連する展示会	成長分野や地域経済に関連する展示会や、国内外から集客を見込める大規模イベントを誘致

戦略的MICE誘致の推進（2）

（2）MICE事業推進のための体制作り

- ・大阪の経済成長に資するMICE誘致や、誘致したMICEの地元への経済効果を最大限に引き出すとともに開催にあたっての支援等を実施していくため、大阪観光局を中心に、府・市・経済団体が一体となってMICE誘致を推進する。
- ・実働部隊として、府・市・経済団体に加え、MICE施設等も参画した会議を立ち上げ、適宜情報共有を行うとともに、主要施設を最大限活用した誘致活動を行う。
- ・各MICEクラスターと情報共有等連携を行い、大阪全体での誘致活動を実施する。

①MICE推進体制の構築

- ・MICE推進に向け、府・市・経済団体・大阪観光局により「大阪MICE推進委員会」を立ち上げ、主要施設を最大限活用し、大阪の経済成長及び都市格向上に資する国内外からのMICE誘致を戦略的に行う。また、委員会のもとに実務者会議を設置し、MICE施設等も交えて、MICEの誘致に向けた具体的な手法の検討や情報の共有等に努める。
- ・個別の国際会議、展示会等案件が出てきた場合、必要に応じて誘致委員会等を立ち上げ、首長や関連団体の長の誘致レターの作成などの誘致活動を行う。
- ・各MICE開催にあたっては、開催時の首長や関連団体の長のオープニングへの参加などの歓迎行事の協力を行うとともに、各種開催支援（広報PR、公共地活用にかかる規制緩和等）を行う。
- ・MICE推進に関する取り組みについては、府・市・経済団体のトップが会する場において、定期的に報告を行う。

②大阪MICEビジネス・アライアンスとの連携

- ・民間主体のMICE誘致・支援のネットワーク組織である「大阪MICEビジネス・アライアンス」と連携し、開催地としてのプロモーション等を行う。

③各MICEクラスターとの連携

- ・各MICEクラスターと連携し、エリアの特性に応じたMICE誘致など、MICEブランド構築に向け、情報共有・意見交換を行う。

戦略的MICE誘致の推進（3）

（3）MICE誘致手法の検討

- ・重点誘致対象の誘致に向けて、マーケティング・セールス手法を強化する。特に、学会・協会等関係者や関連企業との連携を強化する。
- ・大阪観光局のMICE推進部の体制強化に努める。
- ・重点誘致対象を確実に誘致するため、国内外のMICE事業にかかるマーケティングを適切に行うとともに、海外も含めて積極的にセールス活動を行う。特に、国際会議や展示会開催にかかる意思決定権を有している学会・協会等関係者や重点誘致対象分野に関連する企業との連携を強化する。
- ・MICE誘致にあたっては、専門人材を擁する大阪観光局を中心に、大阪版DMOとして国の交付金(平成32年(2020年)までの措置)を活用しながら行う。通常、MICEは開催の4~5年前から誘致活動が行われるため、MICE施設の機能が強化される時期を見越して、戦略的なMICE誘致に必要な体制強化に努める。夢洲で事業を行う統合型リゾート(IR)事業者等が決定した際は、当該統合型リゾート(IR)事業者とも緊密に連携し、MICE誘致を行う。
- ・また、MICE誘致・開催には高度に専門的なスキル・ノウハウが必要となるため、このような能力を持つ人材の育成に努める。
- ・大阪に集積する産業分野等を中心としたMICEを誘致するため、経済団体等の推薦を受け、大阪MICE推進委員会が任命した方に大阪版MICEアンバサダー(仮称)に就任いただき誘致活動を行っていただく。

（4）関西一体となった連携協力のハブ機能の検討

- ・関西広域及び中四国等の都市と情報共有等を通じて緩やかな連携を図り、関西圏の各団体等との一体となった連携協力による広域でのMICE推進のハブ機能を担うとともに、大阪のMICE関連産業の活性化につなげる。
- ・また、関西・中四国で開催される様々なMICEと棲み分けを図る。
- ・関西観光本部等と連携し、行政区を超えた情報共有・意見交換・連携を行い、関西全体のMICE市場全体を増やす取り組みを進める。
- ・また、近隣他都市にはない大阪ならではのMICE誘致に努め、他都市との棲み分けを図る。

主要MICE拠点の役割分担・機能強化

- ・MICEは都市の経済活性化、ブランド向上に重要な役割を果たす。そのため、MICE施設は都市の発展に重要なインフラのようなものと言える。
- ・近年、世界的に国際会議や展示会の開催態様が変化しており、一定規模の会議場・展示場が一体的に整備・運営され、宿泊、飲食、物販、エンターテイメントなどの機能が集約されたオールインワン型のMICE施設が求められており、施設がないことを理由にMICE開催都市として選定されなくなってきた状況にある。
- ・MICE推進においてアジアのトップをめざしていくためには、海外他都市にも比肩するMICE施設が必要である。
- ・大規模用地を確保可能な夢洲に世界第一級のMICE施設を整備するとともに、既存のMICE施設が立地し今後さらなるまちづくりが予定されている大阪駅周辺、中之島を中心に、各拠点の役割分担や機能強化を図る。MICE施設の整備運営にあたっては、公民の役割分担及び緊密な連携が必要である。加えて、大阪府域各所に立地するMICEクラスターとの連携が重要である。
- ・一部の国際会議等については、独自のレギュレーション（運営基準）により、統合型リゾート（IR）に隣接しない会場での開催を推奨していることなどにも留意した上で、役割分担や連携の検討が必要である。

主要エリアの役割分担・機能強化の方向性

主要エリア	エリアの特徴	まちづくりの方向性	役割分担	機能強化
大阪駅周辺	西日本随一のターミナルうめきた2期のまちづくりが進行中	国際競争力を有する都市機能を高度に集積、国際競争に必要なイノベーション創出に取り組む	アクセスの良さを活かした中小規模MICEの実施	民間主導によるカンファレンス・展示機能等の充実
中之島	水都大阪のシンボルアイランド大阪を代表する大阪府立国際会議場が立地	歴史・文化と水辺の都市環境を活かしたまちづくりを推進するとともに、国際的な業務・文化・学術・交流拠点の形成を図る	医学会等の学術系の中規模MICEの実施	会議場・展示場一体型MICE機能の検討
ベイエリア（咲洲・夢洲）	咲洲に大規模展示場（インテックス大阪）が立地 夢洲では国際観光拠点形成をめざす	夢洲の大規模用地を活用し、大阪・関西のネットワークの拠点となる国際観光拠点を形成	これまで国内で開催されてこなかった世界規模MICEの実施	夢洲に世界第一級のオールインワン型MICE機能の整備

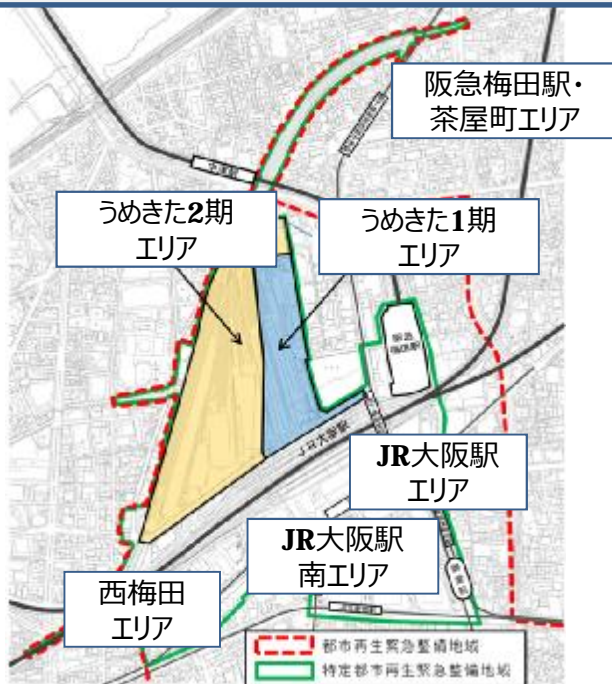
主要MICE拠点の役割分担・機能強化（大阪駅周辺エリア）

大阪駅周辺エリアの特徴と方向性

- ・西日本随一かつ関西国際空港と直結するターミナルを有し、多様な層をターゲットとした宿泊施設、商業・飲食施設、エンターテインメント施設等都市機能が高度に集積しており、大阪、関西のみならず国の成長をけん引する国際競争力を備えたエリアである。国際レベルの人材・企業の活動の受け皿となり、これを支える空間・基盤を整備するとともに、この地域に集まる多様な人々の交流を通じ、新たな価値・情報・文化等を創出する知的創造拠点機能を強化する。
- ・特に、うめきた2期では、世界の人々を惹きつける比類なき魅力を備えた「みどり」と、新たな国際競争力を獲得し、世界をリードする「イノベーション」とが融合するまちづくりを推進し、大阪・関西の発展を牽引し、国の成長に寄与する。

大阪駅周辺エリアのMICE機能強化方針

- ・大阪駅周辺エリアでは、エリアの特徴を活かし、都市型カンファレンス・展示機能等の充実を図る。また、多様な施設が相互に連携することでエリア全体でMICE機能の充実を図り、中小規模の会議や小規模のインセンティブツアーを中心とした、都市型MICEの拠点を形成する。



主な会議施設

※各施設における最大規模の会場の収容人数

施設名	収容人数 (※)
ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンター	1,750
ハービスHALL	1,000
梅田スカイビルイベントホール	1,000
サンケイホールブリーゼ・ブリーゼプラザ	912
梅田センタービルクリスタルホール	700
ナレッジキャピタルイベントラボ	500

主要MICE拠点の役割分担・機能強化（中之島エリア）

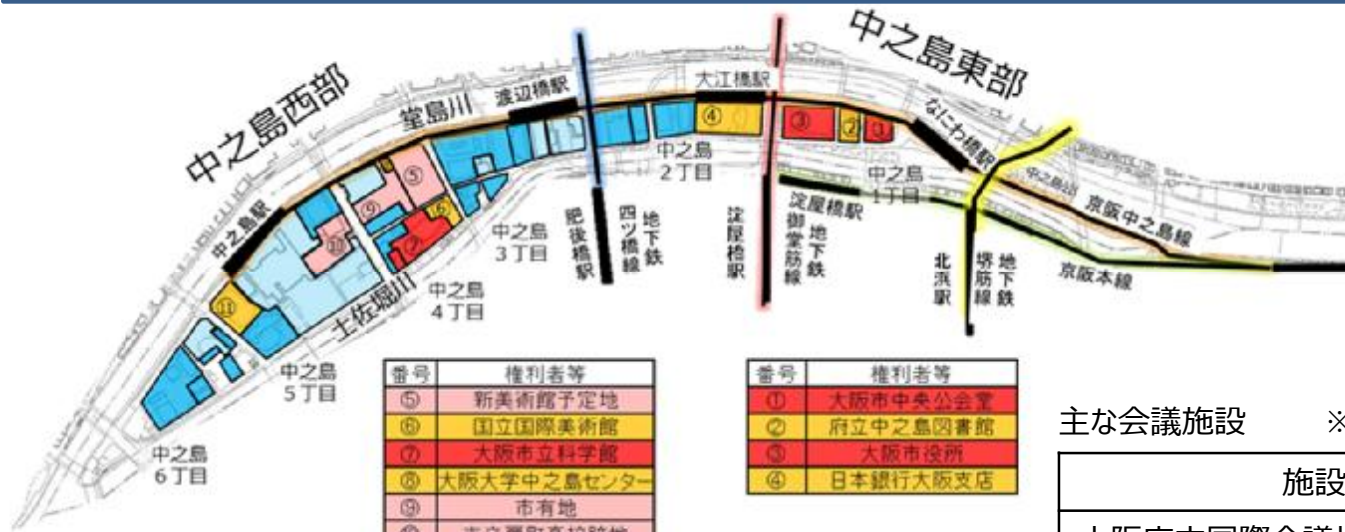
中之島エリアの特徴と方向性

・古くからの経済・文化・行政の中心地であり、現在でも、業務の中枢機能などが集積、芸術・文化の発信拠点としての役割も担い、大阪の中心業務地区を形成している。堂島川と土佐堀川に挟まれた水都大阪のシンボルアイランドとなっている。

・こういった地区の特性を活かし、これまでの業務・文化・MICE機能の集積に加え、新しい美術館の整備とともに、産学・社会学連携拠点や再生医療国際拠点の形成、都市型MICE機能など国際ビジネスサポート機能の拡充につながる都市開発の促進などにより、国際的な業務・文化・学術・交流拠点の形成を図っている。

中之島エリアのMICE機能強化方針

・これまで多数の国内外の国際会議が開催されてきた大阪府立国際会議場を中心に、中之島エリアの開発に合わせて、会議場・展示場一体型MICE機能の確保について検討する。



番号	権利者等
⑤	新美術館予定地
⑥	国立国際美術館
⑦	大阪市立科学館
⑧	大阪大学中之島センター
⑨	市有地
⑩	市立豊町高校跡地
⑪	府立国際会議場

番号	権利者等
①	大阪市中央公会堂
②	府立中之島図書館
③	大阪市役所
④	日本銀行大阪支店

主な会議施設 ※各施設における最大規模の会場の収容人数

施設名	収容人数 (※)
大阪府立国際会議場	2,754
堂島リバーフォーラム	1,200
大阪市中央公会堂	1,161

主要MICE拠点の役割分担・機能強化（バイエリア）

バイエリアの特徴と方向性

・臨海部では、港湾・物流機能が充実集積しているとともに、工場などの生産機能を主とした土地利用が行われている。夢洲・咲洲地区及び阪神港地区では、関西が強みをもつ環境・エネルギー産業の生産拠点の集積と、こうした産業を下支えする国際物流機能の強化をめざしている。特に、夢洲では、立地ポテンシャルを活かし、訴求力の高い国際観光拠点を形成し、大阪経済の活性化に寄与するとともに、ネットワーク形成により拠点形成の効果を広く波及させ、西日本の活性化に寄与する。

バイエリアのMICE機能強化方針

・夢洲に、統合型リゾート（IR）を核として世界に訴求力を持つオールインワンMICE拠点を形成し、都市力向上・産業振興に資する大規模展示会や国際会議等への対応力を強化する。
 （世界水準の質・規模の展示施設、会議場等を備えた複合施設（展示面積10万～20万㎡の日本最大級の展示施設、1万人規模の会議に対応できる会議場を併設）をめざす。）
 ・国際観光拠点の集客と最先端技術の実証・実践の取り組みとの相乗効果により、夢洲全体で次の成長産業につながる新たなイノベーションが誘発されるまちをめざす。



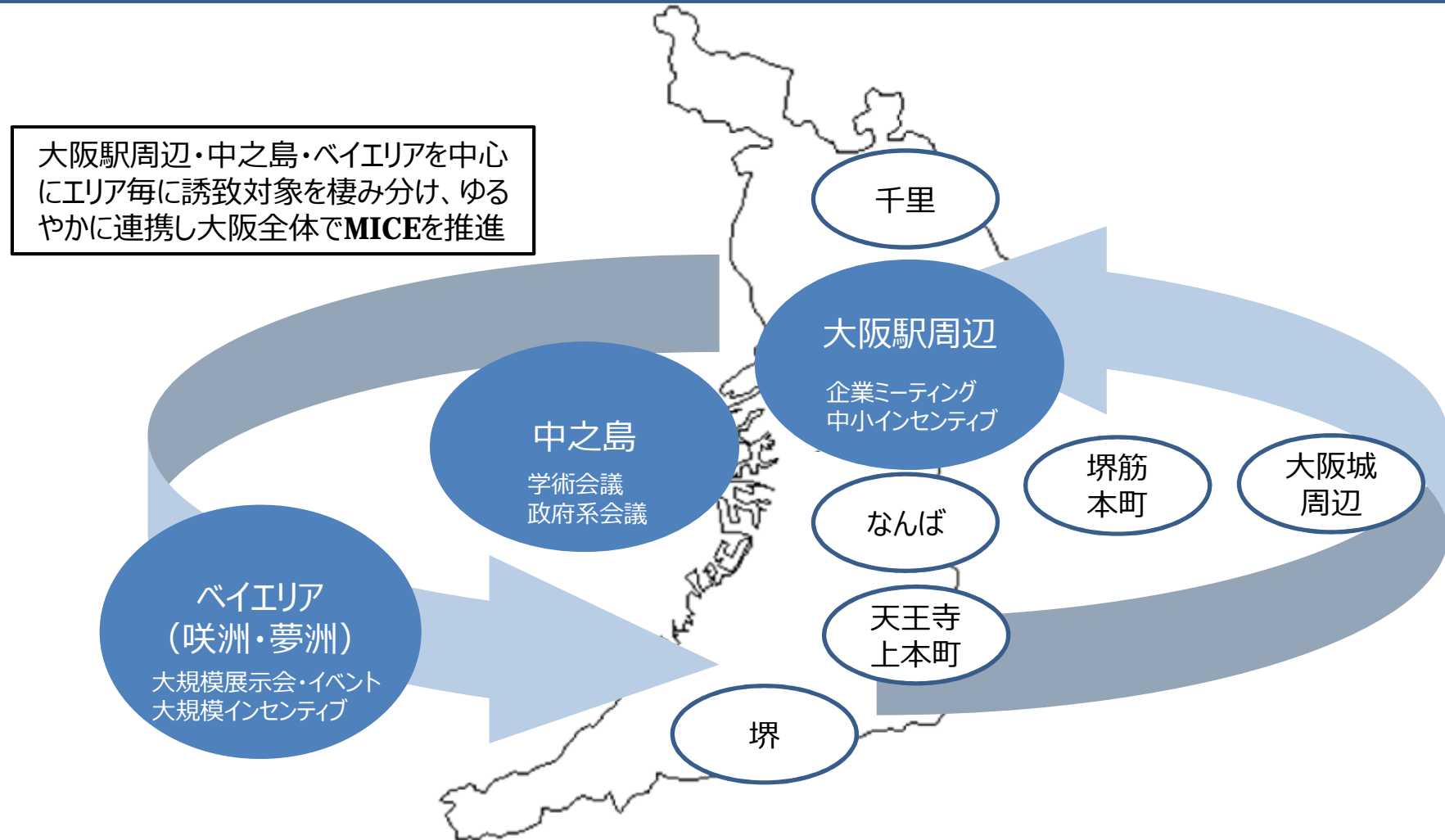
咲洲における主な展示施設

施設名	展示面積 (㎡)
インテックス大阪	70,078
ATCホール	7,000

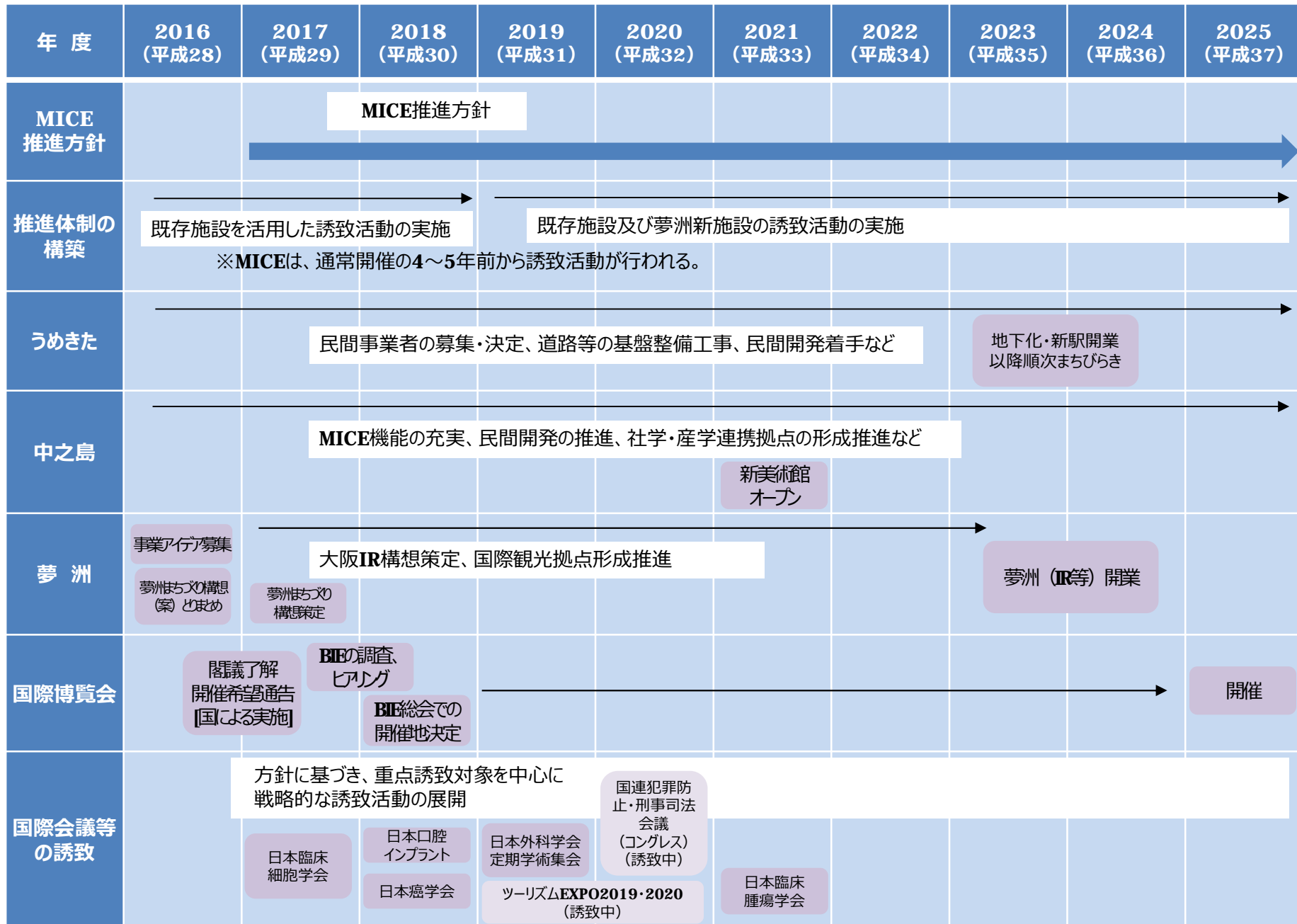
※夢洲の国際観光拠点形成の検討の中で、改めてインテックス大阪の方向性についても検討

MICEクラスターの連携

- ・大阪観光局を中心に、大阪府域各所に立地するMICEクラスター毎に、緩やかに組織化。受け入れ可能な施設や地域の特性に合わせた誘致対象を検討し、MICEクラスター毎の棲み分けを図る。
- ・MICE誘致にあたって、各MICEクラスターが緩やかに連携を行う（情報共有・PR活動の実施等）。
- ・大阪全体で受け入れる必要があるMICEがあれば、各MICEクラスターが連携する。必要に応じて、大阪駅周辺（中小規模の企業会議、インセンティブツアー）、中之島（国際会議）、バイエリア（咲洲・夢洲）（展示会、大規模インセンティブ、イベント）と連携する。



MICE関係想定スケジュール



大阪MICE推進委員会準備会

大阪府、大阪市、大阪商工会議所
公益社団法人関西経済連合会
一般社団法人関西経済同友会
公益財団法人大阪観光局（事務局）